

# 令和7年度の取組内容について（報告）

## 差別解消

### 障害者差別解消支援地域協議会

- ・ 障害者差別の解消を目的とする施策の検討や実施報告など
  - ・ 地域に寄せられる相談事案の共有（事後的分析）
- ▶第1回 8月8日（金） ▶第2回 2月13日（金）

### 佐倉市職員研修

障害のあるなしに関わらず誰もが同じよう  
に行政サービスの提供を受けられるよう、市  
職員への研修を実施しました。

- ▶10月6日 新規採用職員向け研修 36名参加
- ▶2月5日 窓口対応力向上研修 40名参加
- ▶合理的配慮の提供をテーマとした研修。VR  
機器を用いた発達障害の特性を疑似体験する  
「VR発達障害」を実施。



### 障害者差別解消法についての出前講座

市内事業者等への障害者差別解消法に  
関する出前講座を実施しました。

- ▶7月2日 市民体育館の指定管理者  
(11人参加)
- ▶①8月5日、②11月18日 印旛地区教育研  
究会第一部会 特別支援教育研修会  
(①49人参加 写真上、②25人参加。写真  
下 VR体験)
- ▶9月11日 岩名運動公園の指定管理者  
(10人参加)
- ▶1月13日 市民カレッジ3年福祉コース (13人参加)



## 障害者差別解消法ポスター・ちらしの配布

改正障害者差別解消法をお知らせするポスター・掲示および市内事業者に向けたちらし・リーフレット等を配布します。

- ▶上記出前講座の参加者にちらしを配布
- ▶4月16日 第三工業団地連絡協議会 定期総会
- ▶5月21日 佐倉工業団地連絡協議会 定期総会
- ▶11月8日・9日 佐倉・産業大博覧会
- ▶1月12日 佐倉市成人式



## 障害者虐待防止 事業者向け研修

施設における虐待防止策の検討や体制整備、実際に虐待があった際の対応などについて徹底を図るため、事業者向け研修を実施します。

### 【予定】

- ▶3月6日 佐倉市障害者総合支援協議会 啓発・権利擁護部会の主催により、市内障害福祉事業所の職員を対象とする研修会の開催を予定しています（参加者80人を想定）。

# 理解促進

## 東京 2025 デフリンピックについての情報発信

日本で初開催となった東京 2025 デフリンピック（11月15日～26日）の情報ははじめ、手話や要約筆記など聴覚障害のかたとのコミュニケーション手段について情報を発信しました。

- ▶市ホームページに長内 智選手（陸上競技 800m・市内在住）のインタビュー記事を掲載
- ▶広報紙「こうほう佐倉」・広報番組「Weekly さくら」・佐倉市公式 YouTube チャンネル「さくら動画配信」での紹介
- ▶10月23日 東京 2025 デフリンピック PR キャラバンカーが佐倉を来訪、佐倉市ろう者協会の皆さんや佐倉中学校陸上部が参加し、市民体育館にて歓迎イベントを実施。
- ▶10月27日～11月27日 イオンタウンユーカリが丘でのパネル展示
- ▶11月8日 佐倉・産業大博覧会でのパネル展示
- ▶11月14日～27日 佐倉南図書館でのパネル展示

### 長内 智 選手 デフ陸上競技/東京パワーテクノロジー株式会社

**Profile**

1989年生まれ。生まれつき聴覚障害。中学校時代、バスケットボールをしていたが、目標設定におけるコミュニケーションの難さを思い、新人種目である陸上競技に転向。千葉県中学校体育大会陸上競技で優勝し、陸上競技に熱中していく。大学時代に初の聴覚障害者の方が参加し、初めてデフリンピックの1000mを完走したことをきっかけに、さらに陸上競技に打ち込む。2014年には、第1回夏季デフリンピック陸上競技大会で3年連続としく出場した。

聴覚障害が得意スピードとして、2016年デフリンピックメダル獲得を目指すとともに、自身自身がロールモデルとなりデフリンピックの魅力を発信し、知名度を広め、聴覚障害が得意とされることへの理解を促進しようとしている。

佐倉市立佐倉中学校、定童中学校出身。



東京2025デフリンピック  
陸上競技800m出場内定!!

### 2025年11月 初めて日本で開催されるデフリンピック



デフリンピックとは、「デフ」(聴覚) + オリンピックのこと。「デフ」とは、英語で「聞こえない」という意味で、デフリンピックは聴覚的に「聞こえない、聞こえにくい人」のためのオリンピック。国際ろう者スポーツ委員会 (ICSD) が主催し、7年ごとに開催されるアムステルダムを宣言とした国際総合スポーツ競技大会です。第1回は、1974年にフランスのソルで開催されました。

東京2025デフリンピックは、100周年の記念すべき大会であり、日本では初めての開催になります(2025年11月15日～26日)。国際連盟の旗が、スタートラインや会場を彩った視覚による視覚情報があります。

デフリンピックには、「①「聞こえよう」など外国人は聴覚的に聞こえないと聞き取りにくいサインを添えてあり、②聴覚的に「ろう者スポーツ」に賛同している高層で、③ろう者(聴覚障害者)に対しては人々が安心して参加し、④聴覚障害者や聴覚障害者の子供が安心して参加できること」が目的です。

デフリンピックは、聴覚障害者にとって初めての大会であり、聴覚障害者にとって初めての大会であり、聴覚障害者にとって初めての大会です。



## VR 体験で理解する発達障害

VR 機器を活用して、発達障害の特性のうち「聴覚過敏」「視覚過敏」「ADHD」を疑似体験する機会を提供しました。

当事者の感覚を疑似的に体験することで、言葉だけでは伝わりにくい障害についての理解を深めることができます。また、体験を通して当事者が希望する配慮を具体的にイメージしていただきやすくなります。

▶11月18日 印旛地区教育研究会 第一部会 特別支援教育研修会

▶12月13日 VR 発達障害体験会  
 (「ふれあいギャラリー」と同時開催) 67人参加

▶2月5日 佐倉市職員研修



### VR体験で 理解する 発達障害

12月13日(Sat)

11:00-15:00

佐倉市立美術館

4階ホール

無料・申し込み不要

#### 当事者の 困りごとを VRで体験

当事者の感覚をVR(\*)で疑似的に体験することで、言葉だけでは伝わりにくい発達障害の特性についての理解を深められます。また、当事者が実際に経験されたエピソードを体験することで、求められる配慮を具体的にイメージしやすくなります。

(\*)VRとは「Virtual Reality」の略で、「仮想現実」を意味します。専用のゴーグルで人間の視界を覆うように360°の映像を映すことで、実際にその空間にいるような感覚を得られる技術です。

#### VR体験の流れ (1回15分程度)

- ①事前に映像の内容を紹介
- ②VR映像で疑似体験
- ③映像の内容や障害特性の補足説明
- ④当事者インタビューを視聴
- ⑤アンケート

◆本プログラムで使用するVR機器は、13歳以上が対象です。目の発達等に悪影響を与える可能性があるため、12歳以下のお子さんが使用することは推奨されておりませんのでご注意ください。  
 VRゴーグルを着用せずに動画をご覧いただくことも可能です。

#### 体験者の感想から(一部抜粋)

息子の世界を知ることができて本当によかった

息子が聴覚過敏のためイヤーマフを使用しています。ドライバーの音、バイクの音、シャッターを開める音、お友達の話き声などとても辛そうな場面があるので、今回体験する機会があって、息子の世界を知ることができて本当によかったです。



配慮の視点が欠けていたと気づかされました

発達障害の知識はあっても、想像でしかなかった。今回の体験で本人の心の状態を少しでも感じられ、理解が深まったと思った。一見わからない生活のしづらさを、言いやすい工夫があると良いと思いました。自分の勤務先でも、そのような配慮の視点が欠けていたと気づかされました。



#### 理解してもらうことがとても大切

私の息子は自閉スペクトラム症で、感覚過敏がある。幼い頃から感覚過敏があったと思うが、息子は自分の症状を他人と比べられなかったので、私も本人もそれに気づけなかった。車のドアを開ける音、ボールをつく音、花火や雷の音は飛び上がるくらいびびりますと音。音の問題は、時に周囲の人とのトラブルにつながることもある。まず理解してもらうことがとても大切だと思っている。



問い合わせ 障害福祉課 ☎043-484-4164 mail:shogaifukushi@city.sakura.lg.jp

(\*)「VR」とは…VRは、「Virtual Reality」の略で、「仮想現実」を意味します。具体的には、専用のゴーグルで人間の視界を覆うように360°の映像を映すことで、実際にその空間にいるような感覚を得られる技術です。

## 福祉事業所等による市内事業所での販売会実施

市内での一般就労の機会創出に向けて、障害理解の促進を図るため、福祉事業所等による市内事業所での従業員向け販売会を実施しました。

▶10月9日 (株)QVC ジャパン QVC 佐倉商品センターにて、あいので佐倉 (One & Only Café ユーカリが丘) が販売会を実施▶定期的に販売会を行うことに。



## 佐倉・産業大博覧会

佐倉市の産業（商業・農業・福祉）が出展する「佐倉・産業大博覧会」（11月8日・9日）にパラスポーツの体験ブースを出展。2日間で608人のかたがフライングディスクを体験しました。

講師は片岡昭雄氏（市内在住・第24回全国障害者スポーツ大会「わた SHIGA 輝く障スポ」男子2部・アキュラシー ディスリート・ファイブ 10投（1位）、ディスタンスメンズ・スタンディング 37m02cm(1位)）



## 佐倉市障害者作品展「ふれあいギャラリー」

障害のあるかたが創作した「絵画・書道・写真・手芸・陶芸」などの文化芸術作品を展示する「ふれあいギャラリー」を開催しました。

併せて市内福祉事業所による販売会やVR 発達障害の体験会（ともに13日のみ）も実施しました。

期間 12月11日～14日

会場 佐倉市立美術館3階ギャラリー

来場者数は4日間で624人、出展数168点（VR 発達障害の体験会には67人が参加）



## こうほう佐倉 令和7年11月15日号掲載

「障害のある人もない人も 住み慣れたまちでいきいき暮らす」をテーマとして、東京2025デフリンピックや「ふれあいギャラリー」のご案内、佐倉市地域生活支援拠点等の整備について、市広報紙「こうほう佐倉」に特集記事を掲載しました。



## 市内小中学校における福祉教育の推進

小中学校で実施する福祉教育を推進するため、小中学校、関係機関と連携しながら、福祉教育のプログラム化を進めます。

### 【実績】

11月18日 印旛地区教育研究会第一部会 特別支援教育研修会にて「メンタルヘルス」をテーマとした福祉教育プログラム案を紹介し、内容などについてアンケート調査を実施しました。

### 【予定】

佐倉市障害者総合支援協議会 啓発・権利擁護部会にて、福祉教育プログラム化を進めており、令和9年度からの市内小中学校での実施を目指しています。